

理論や技術は、
使われて初めて
価値が出る。



高校生の頃、インターネットに出会ってしまったんです。これは面白い、と。そして段々と「便利だけど不思議だな」と思うようになり、どうやって世界中がつながっているのかに興味を持つようになりました。大学では通信ネットワークのプロトコルを研究。月と通信するにはどうすればいいか、火星にインターネットを張り巡らせる方法はあるか、と非常に夢のある学問で純粋な研究者としてのキャリアも考えましたが、理論や技術は使われて初めて価値が発揮されると思っていたので、多くの人が使う金融システムを主領域とする日本総研に入社を決めました。

現在は、サイバーセキュリティに関わるリスク管理業務全般を担当しています。セキュリティという概念は非常に古く、古代ギリシャ時代には既にステガノグラフィ(データを他のデータに埋め込む技術)が使われていたと言われます。大昔から人間は、大切な情報を保護するために知恵を絞ってきたんですね。私が今携わっている仕事もその延長線上にあり、「大切なモノを守る」という基点は何ら変わっていないと感じます。

以前は、社内のプライベートクラウドを開発していました。自分と言うものなんですが、けっこういいものができたんですね。先進的な取り組み・成功事例だったので、これを業界標準にして世の中を変えるところまでいけないかと考え、社外の専門家の方たちに相談しようとしたんですが、うまく進められませんでした。研究会や大学を通して自身の取り組みを認めてもらうためには何が一番の近道かを考え、企業にいただけでは得られない人的ネットワークの構築や自身の知見を深めようと、大学院に入り直して仕事をしながら博士号を取得しました。

研究テーマは、会社のデータセンターにおけるプロトコル。研究一筋の方からは「もっと夢のあることをやろうよ」と言われましたが、



逆に就職経験のある方は「それってこんなことに役立つそうですね」と興味を持ってくれる。これはどちらが良い・悪いではありません。ただ、私自身は実際に使われる技術を研究したかったので、非常に充実した時間を過ごすことができました。博士号を取得したことで有識者ネットワークに参加しやすくなり、研究雑誌や研究会などで議論される先進的な技術や知見に触れる機会も増えています。

今、強い興味を抱いているのは、仮想通貨などで活用されているブロックチェーン技術。これまでは複数のコンピュータが連動していても、マスターコンピュータは1つでした。ところがこの技術を使うと、すべてのコンピュータがマスターの一部機能を担います。ブロック全体でプログラムを実行する、CPUではなくネットワークに命令を送る。コンピュータの使われ方が大きく変わることで世の中も変わるのではないかと思います。博士号を取った後も新しい理論や技術を学び続けています。技術の勉強が終わることはありません。それ自体が私にとっての大きなやりがいですし、学んだ理論を現実に使えるシステムに落とし込むことが、自分自身のライフワークだと感じています。

開発推進部門
セキュリティ統括室 長田 繁幸

Shigeyuki Osada

